

金融商品の
取扱説明書
トリセツ

第40回

「はじめのかんぽ」
株式会社かんぽ生命保険

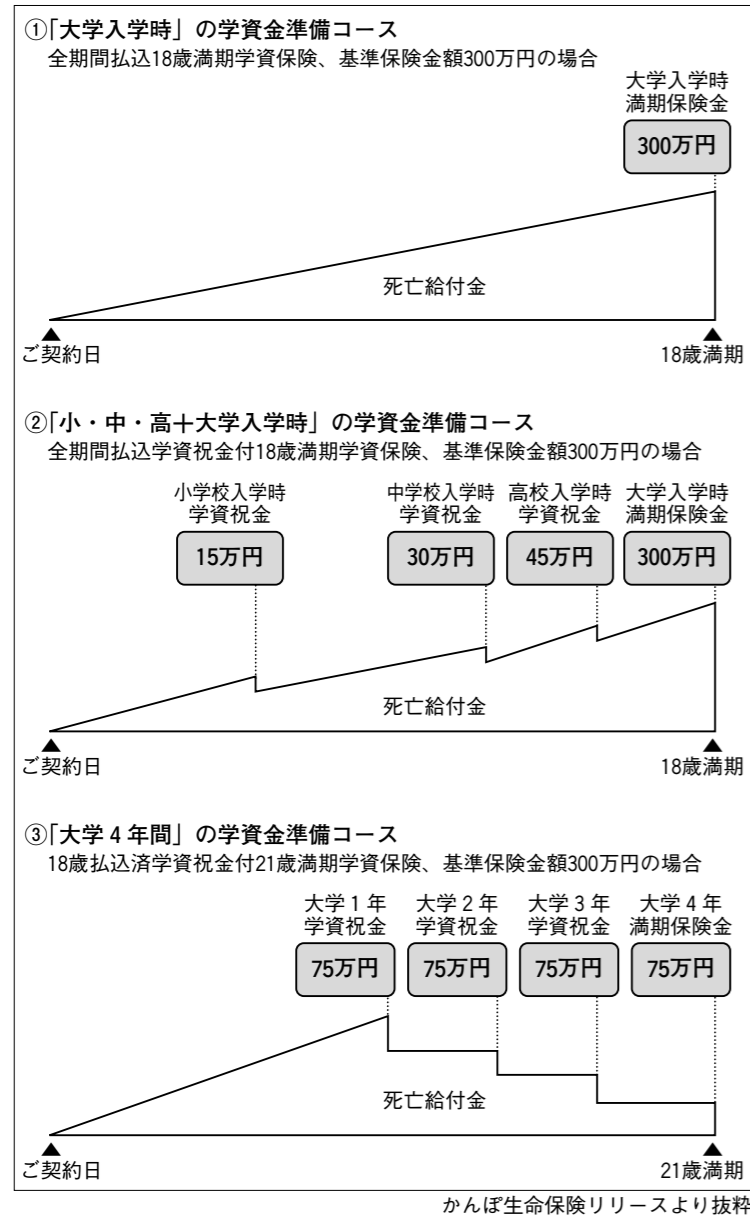
「住宅資金」「老後資金」と並び、人生の三大資金の一つである「教育資金」。この教育資金準備として、多くの家庭で活用されているのが「学資保険」である。かんぽ生命保険は、戻り率重視で学資保険が選ばれるという近年のトレンドを踏まえ、従来の学資保険をリニューアルし、2014年4月2日に『はじめのかんぽ』を発売した。今回はファイナンシャル・プランナーの竹下さくらさんに『はじめのかんぽ』のリニューアルのポイント、学資保険活用の考え方などを質問していただいた。

株式会社かんぽ生命保険
中岡啓輔 (右)
商品サービス部 商品制度課長
日本郵便株式会社
藤川美香 (左)
営業部 保険担当



竹下さくら
Interviewer
たけした・さくら／なごみFP事務所。損害保険会社(本店業務部門)および生命保険会社(引受診査部門)に勤務後、FPとして独立、現在に至る。千葉商科大学大学院のMBA課程で客員教授を務めるほか、主に個人の相談・執筆・講演を行っている。

図表 「はじめのかんぽ」の仕組み図



中岡 一つは、早めに払込みを終えてもらうことで、その分、運用期間を長く取り、戻り率を上げるといふ意図があります。一方で、あまりにも短期で払込みを終えるプランにしていると、毎月の保険料が高くなってしまいます。この2つのバランスで、何歳で払込みを終えるように設定するのが適切かが決まります。

『はじめのかんぽ』の商品設計にあたり、実際に保険の募集を行っている郵便局の販売担当者にお客さまのニーズについてヒアリングを行いました。そこで、「中学生になると、お金がかかるようになるため、そのときまでに払込みが終わるプランであれば、無理なく学資保険の保険料を支払える」という声があることがわかりました。さらに、中学校入学後も、家計に余裕があるのであれば、ほかの商品や手段でお金を貯めていただくというアドバイスもできるとい

るため、そのときまでに払込みが終わるプランであれば、無理なく学資保険の保険料を支払える」という声があることがわかりました。さらに、中学校入学後も、家計に余裕があるのであれば、ほかの商品や手段でお金を貯めていただくというアドバイスもできるとい

担当者のお話を聞きました。ご家庭によって中学校から私立に進学します。公立中学に進学したとしても部活動が本格化し、遠征費などの出費が増えます。つまり、中学生になることで、お子さまに関するお金がかかるようになるわけです。ここが「戻り率のアップ」と「無理のない保険料設定」が釣り合うところだと判断できたので「12歳」にしました。

竹下 お客さまが学資保険を選ぶ際の基準として「1%でも戻り率が高いものを」という傾向があります。この点については、どうお考えですか？

中岡 たしかに『はじめのかんぽ』よりも高い戻り率の学資保険もあります。お客さまが貯蓄性を重視するのはもつともなことです。しかし、学資保険を選ぶポイントは貯蓄性だけではないと思います。あくまでも「保険」ですので、「保障を準備する」という視点も忘れないでほしいですね。その点『はじめのかんぽ』では、

「保障」から「貯蓄」へと
学資保険に求めるものが変化

竹下 従来の学資保険から『はじめのかんぽ』へのリニューアルは、教育や学費準備をとりまく環境の変化を捉えてのことだと思います。以前に比べて、どのように環境が変化しているとお考えですか？

中岡 いま日本では、少子化と高齢化が進んでいます。お子さまに対するご両親の期待も高くなりまして、祖父世代も少ないお孫さんに目を向けておられるという状況です。それだけ子ども1人にかける教育費も増えてきているのではないかと見えています。

また、世の中では低金利が続いています。お客さまは、少しでも利回りを上げてお金を増やしたいというお考えのもと、学資保険に加入されているわけです。

こうしたトレンドの中で、これまでの学資保険では、戻り率(受取総額÷払込保険料総額)を重視する最近のお客さまのニーズを満

たせなくなっていました。これらの点を踏まえ、リニューアルに取り組まれました。

教育費負担が増える前に
払込みが終わるプランを設定

竹下 『はじめのかんぽ』のリニューアルのポイントとして、「高い貯蓄性」「出生前加入制度」「選べる3つのコース(図表)」が挙げられていますね。このうち、最大のポイントは「高い貯蓄性」だと思います。これについて詳しくお聞きします。

「高い貯蓄性」を実現するために、「12歳払込み」のプランを新たに設けたのでしょうか？

他社ですと、10歳、15歳などにはありますが、「12歳払込み」は、私の知る限りありませんでした。「12歳は小学校卒業の年齢」ということで、お客さまにとってもイメージのわかりやすい設定だと思えますが、どういうお考えから「12歳払込み」のプランを出したのかお聞かせください。

「高い貯蓄性」を実現するために、「12歳払込み」のプランを新たに設けたのでしょうか？

他社ですと、10歳、15歳などにはありますが、「12歳払込み」は、私の知る限りありませんでした。「12歳は小学校卒業の年齢」ということで、お客さまにとってもイメージのわかりやすい設定だと思えますが、どういうお考えから「12歳払込み」のプランを出したのかお聞かせください。